

## 加硫促進剤のビンキュアー性について (1)

ビンキュアーは、配合ゴムの貯蔵中に起こるスコーチであり、ビン加硫とも呼ばれている。今回、SBRにおけるチアゾール系、スルフェンアミド系加硫促進剤配合ゴムのビンキュアー性について紹介する。

図1に、配合ゴムを40℃に放置した場合のtc(10)の変化率を示した。チアゾール系のtc(10)は、日数とともに遅く、スルフェンアミド系は速くなり傾向がある。図2から5に加硫曲線を示した。M-60-OTは、日数とともに加硫が速くなる。Mは、40℃、3日放置後の加硫曲線が大きく変化する。

次回、チウラム系加硫促進剤について紹介する。

### 実験

#### 1. 配合

SBRカーボンマスターバッチ<sup>※</sup> 228, 酸化亜鉛 5, 硫黄

2, 加硫促進剤 1(結果に示す) <sup>※</sup>JSR, CH-55

#### 2. 練りゴムの貯蔵安定性試験

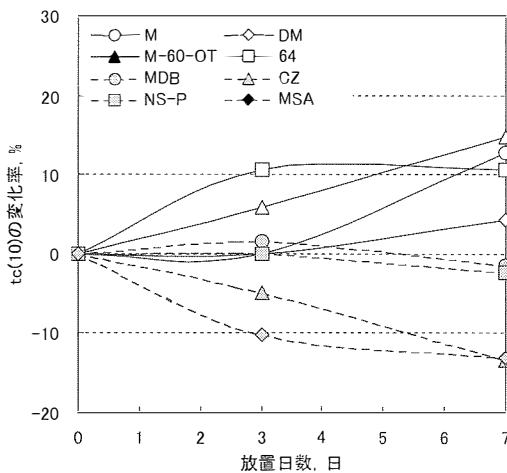


図1 配合ゴムの40℃放置後におけるtc(10)の変化率

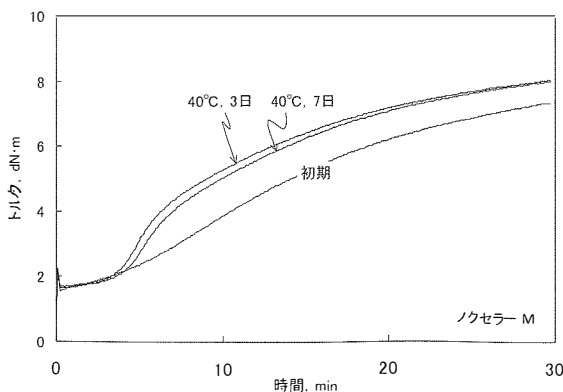


図2 M配合ゴムのビンキュアー性

40℃の恒温槽中に練りゴムを所定時間放置後、加硫試験を実施した。MDR2000, 160℃

ここに記載した内容は、細心の注意を払って行った試験に基づくものでありますが、結果をすべて確実に保証するものではありません。

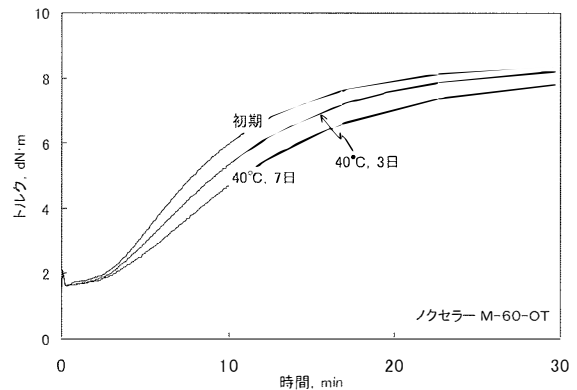


図3 M-60-OT配合ゴムのビンキュアー性

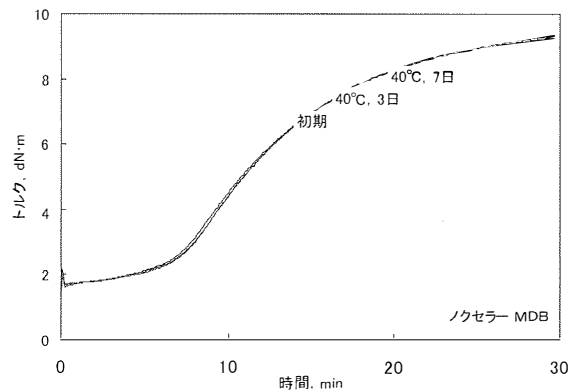


図4 MDB配合ゴムのビンキュアー性

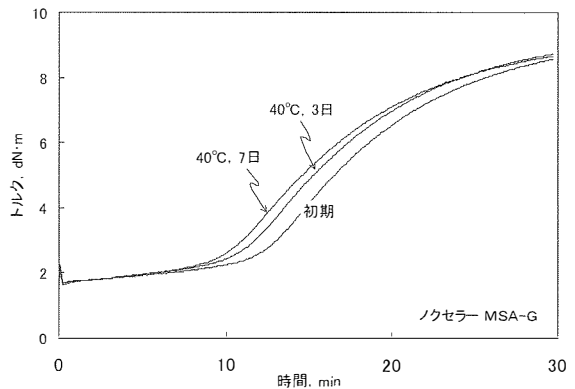


図5 MSA-G配合ゴムのビンキュアー性